

令和 6 年度全国学力・学習状況調査

各学校での教科に関する調査及び質問調査の 分析について

熊本県教育委員会

目次

- 1 分析に向けて（p 2～4）**
- 2 教科に関する調査の分析について（p 5～18）**
 - （1）問題分析から授業改善へ（p 7～13）
 - （2）正答率等の結果から授業改善へ（p 14～17）
 - （3）国の授業アイディア例や、
県の教科に関する調査結果から授業改善へ（p 18）
- 3 質問調査の分析について（p 19～24）**
 - （1）質問項目の絞り込み（p 21～22）
 - （2）結果の可視化（p 23）
 - （3）分析と取組（p 24）
- 参考資料 校内研修シート例（p 25～30）**

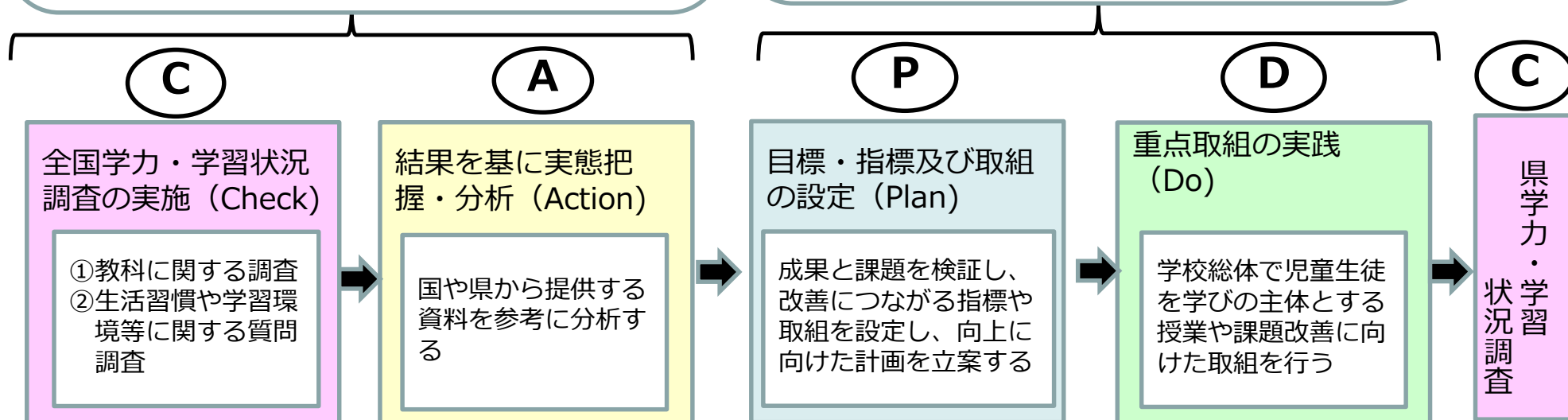
1 分析に向けて

1 分析に向けて

<分析について>

◇学力・学習状況調査の結果から、児童生徒の学力・学習状況や各学校の授業及び学びの保障の取組状況が把握できます

◇取組の成果と課題を検証し、改善に向けて、授業や学校総体で取り組みます



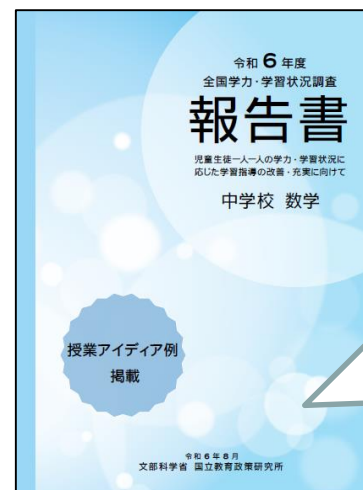
1 分析に向けて

<分析のポイント>

全国学力・学習状況調査の**解説資料**や**報告書**、本県作成「教科の結果分析と課題の改善に向けて」及び本資料は、各学校における結果分析と改善に向けた取組を考える際の参考となります。



調査終了後、速やかに学力や学習の状況、課題を把握し、学習指導の改善・充実等に取り組む際に参考となる資料



結果提供後、設問ごとの解答状況、成果や課題、特徴的な解答の分析等、学習指導の改善・充実を図る際のポイントを示した資料

※ 質問調査においては、経年変化や学力とのクロス分析を掲載

※ 「解説資料」及び「報告書」は下記のURLよりダウンロードできます（R5よりデータにて提供）

「解説資料」： <https://www.nier.go.jp/24chousa/24chousa.htm>

「報告書」： <https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku>

2 教科に関する調査の分析について

2 教科に関する調査の分析について

◇教科に関する調査の結果から授業改善へ

方法①:問題分析から授業改善へ

方法②:正答率等の結果から授業改善へ

方法③:国の授業アイデア例や、県の教科に関する調査結果から授業改善へ

※ 本校の重点取組(活用)シートと併せて活用する。

※P7参照

まずは、「課題改善に向けた重点指標及び取組」と「本校の重点取組（活用）シート」を確認しましょう！



【問題分析の視点】 ◇問題の分析は、授業改善につながります。

- ① 「題材」に着目する
- ② 「構成」や「配列」に着目する
- ③ 「問い方」に着目する
- ④ 「解答類型」に着目する
- ⑤ 過去の学力・学習状況調査の類似問題に着目する

次ページから、今年度及び昨年度までの全国学力・学習状況調査問題の問題等を例に、①～⑤の視点から分析し、授業改善に生かすポイントを示します。

2－（１）「問題分析から授業改善へ」

①「題材」に着目する

- ・ 日常生活と関連するものを扱っている
- ・ 一人一台端末を活用している場面を扱っている



授業改善に生かすポイント

○本問題のように、日常生活と関連した学習活動を位置付けることで、児童生徒が、学んだことの広がりや深まりを実感することにつながります。

全国学力・学習状況調査の問題には、授業改善につながるたくさんのヒントがあります。

R6年度小学校6年生国語より

深緑小学校 村木さん 海風小学校 和田さん

② はじめまして。深緑小学校の村木です。今日は、とても楽しみにしていました。

① はじめまして。海風小学校の和田です。よろしくお願いします。

③ メールありがとうございました。図書委員のことを知りたいということでしたので、まず、海風小学校の図書委員会の取り組みのしょうかいで、読書イベントが、月に1回、図書委員会で、クイズなどをして、私もそれに参加して、今まで読んだことがない分野の本を読みました。

④ せっかく教えてもらったのですが、だれが何をしているのが分からなくなったので、もう一度教えてもらえませんか。

⑤ 説明がよくなかったですね。話し方を変えますね。図書委員会が、月に1回、クイズなどの読書イベントをしてくれます。私もクイズに参加しました。今まで読んだことがない分野の本を読むことができました。

⑥ よく分かりました。おもしろそうですね。

⑦ そうなんです。先月の読書イベントでは、図書委員がさまざまな分野から本を選び、本の内容からクイズを出題してくれました。これが、実際に出席されたクイズが書かれたカードです。私も参加することで、科学の本に興味をもつことができました。

【オンライン交流の様子の一部】

二 和田さんは、「和田さんのメモ」を生かして、村木さんとオンラインで交流しました。次の「オンライン交流の様子の一部」をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

オンラインで学校間交流をする場面設定

2 - (1) 「問題分析から授業改善へ」

②「構成」や「配列」に着目する

- 思考の流れに沿った配列

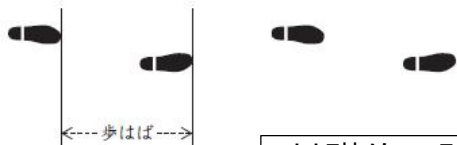
基礎的な1問目から、少しずつ難易度を高くしたり、前の小問の解答を活用して次の問題に取り組んだりといった構成となっている。

4

あいなさんたちは、時間や速さなどについて考えています。

(1) あいなさんは、家から学校までの歩数を求めます。

家から学校までの道のりは、540 mです。あいなさんの歩はばを0.6 mとします。



基礎的な計算

家から学校までの歩数は、 $540 \div 0.6$ の式で求めることができます。
 $540 \div 0.6$ を計算しましょう。

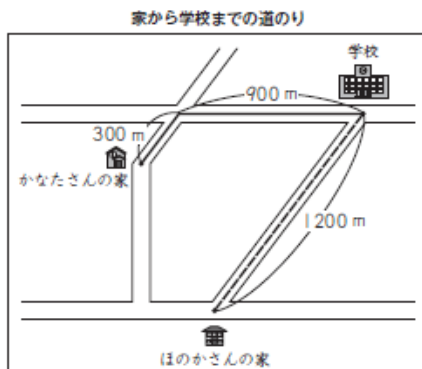
(2) たけるさんは、3分間で180 m歩きました。同じ速さで歩き続けると、1800 mを歩くのに何分間かかりますか。

知識を活用して、思考を伴う計算

授業改善に生かすポイント

- 目的に応じて、問題場面を設定しましょう。
- 思考や課題解決の流れに沿った問題の配列にしましょう。
- 解答したことを、活用して考えるような構成にしましょう。

(3) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。

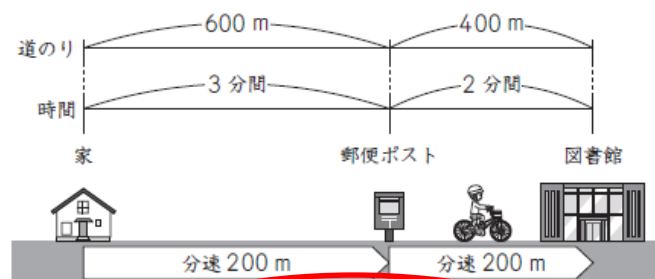
それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。

下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 かなたさん
- 2 ほのかさん

(4) たけるさんは自転車で、家から郵便ポストの前を通って図書館まで行きました。家から図書館まで、5分間かかりました。



家から郵便ポストまでは、道のりは600 mで、3分間かかり、速さは分速200 mでした。

郵便ポストから図書館までは、道のりは400 mで、2分間かかり、速さは分速200 mでした。

家から図書館までの自転車の速さは、分速何 m ですか。

答えを書きましょう。

場面に応じた考察

2 - (1) 「問題分析から授業改善へ」

③「問い方」に着目する

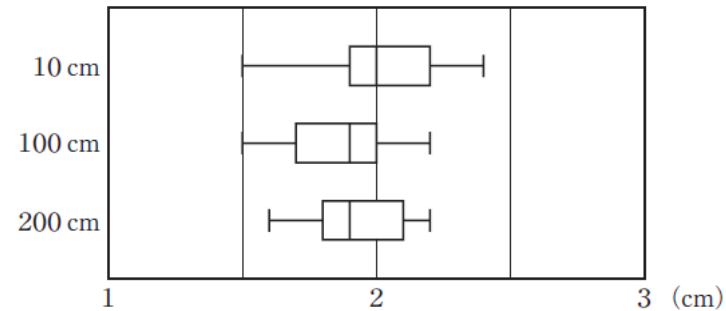
- ・ 簡潔で具体的な問い方
- ・ 1文に1つの指示や発問



授業改善に生かすポイント

- あいまいな発問にせず、教科等の見方・考え方を働かせるような具体的な発問にしましょう。
- 学習のねらいに応じて、何に着目するのか(何から読み取るのか)を示しましょう。

設定した位置から進んだ距離の分布



	設定した位置から進んだ距離 (cm)				
	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
10 cm	1.5	1.9	2.0	2.2	2.4
100 cm	1.5	1.7	1.9	2.0	2.2
200 cm	1.6	1.8	1.9	2.1	2.2

段階1の速さで、障害物からの距離を10 cm、100 cm、200 cmと長くしていくと、四分位範囲はどうなりますか。設定した位置から進んだ距離の分布から読み取り、正しいものを下のアからオまでの中から1つ選びなさい。

「四分位範囲はどうなりますか」だけでなく、何から読み取るのかを具体的に示してあります。

2 - (1) 「問題分析から授業改善へ」

④「解答類型」に着目する

- ・ 誤答を予想



授業改善に生かすポイント

- 子供たちのつまずきから、指導の改善を図りましょう。
- 一時間のゴールや単元のゴールを明確に把握しましょう。

報告書では、設問毎に「解答類型と反応率」「分析結果と課題」等が記載されており、子供たちの解答状況やつまずきの理由等が分析されています。



1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
④	(2) 1 30 と解答しているもの	70.2	◎
	2 300 と解答しているもの	0.4	
	3 10 と解答しているもの	10.0	
	4 60 と解答しているもの	5.2	
	5 600 と解答しているもの	2.3	
	6 540 と解答しているもの	0.6	
	5400 と解答しているもの		
	7 108000 と解答しているもの	0.1	
	99 上記以外の解答	7.9	
	0 無解答	3.3	

2. 分析結果と課題

- 解答類型3について、このように解答した児童は、1分間で180m進むと誤って捉え、1800mを移動するのにかかる時間を求めていると考えられる。
- 解答類型4について、このように解答した児童は、1分間あたりに進む道のりを求める $180 \div 3$ を計算し、その結果を解答していると考えられる。
- 解答類型99の中には、「6」という解答がある。このように解答した児童は、1分間あたりに進む道のりを求める $180 \div 3$ を計算し、その結果を10で割って解答していると考えられる。

3. 学習指導に当たって

二つの数量の関係に着目し、その関係を用いることができるようにする

- 速さが一定である場合について、道のりと時間の関係について考察できるようにすることが重要である。

指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、3分間で180m歩くのと同じ速さで歩き続けると1800m歩くのに何分間かかるかを考え、説明する活動が考えられる。その際、1800mが180mの10倍であり、速さが一定であることから、道のりが10倍になればそれに伴って歩くのにかかる時間も10倍になることを用いたり、1分間あたりに進む道のりを求めてから、1800m歩くのにかかる時間を求めるなど、道のりと時間と速さの関係を用いたりすることができるようになることが大切である。また、360m、540m、720m、…などの道のりについて歩くのにかかる時間を考えることを通して、道のりが2倍、3倍、4倍、…になれば、それに伴って歩くのにかかる時間も2倍、3倍、4倍、…となり、道のりと時間が比例の関係にあることに気付くことができるようになることも大切である。

2 - (1) 「問題分析から授業改善へ」

⑤過去の学力・学習状況調査の類似問題に着目する

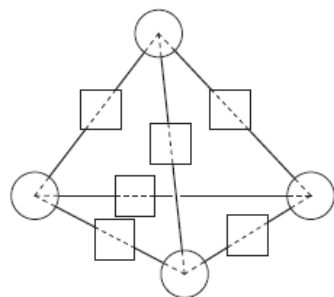
授業改善に生かすポイント

- 題材や問い方を授業づくりやテストづくりの参考にしてみましょう。
- 問題の定着率を比較し、指導の在り方を再確認しましょう。

R6年度 全国学力・学習状況調査問題(中学校3年生数学)より

(3) 優真さんは、正三角形を正四面体に変えても、各頂点の○に入れた整数の和と各辺の□に入る整数の和の間には何か関係があるのではないかと思います。正四面体の図をかいて考えてみることにしました。次の図5は、正四面体の図の各頂点に○を、各辺に□をかいたものです。

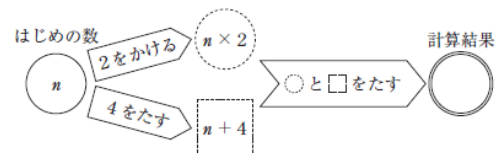
図5



このとき、○に入れた整数の和と□に入る整数の和について、どのようなことが予想できますか。前ページの予想のように、「～は、……になる。」という形で書きなさい。

R5年度 全国学力・学習状況調査問題(中学校3年生数学)より

図3



夏希さんの計算

はじめの数として入れる整数を n とすると、はじめの数に2をかけた数は $n \times 2$ 、4をたした数は $n + 4$ と表される。計算結果は、

$$\begin{aligned} & n \times 2 + (n + 4) \\ &= 2n + n + 4 \\ &= 3n + 4 \end{aligned}$$

計算結果が $3n + 4$ となることから、はじめの数としてどんな整数を入れても「はじめの数にける数が2、たす数が4ならば、計算結果はいつでも4の倍数になる」という予想は成り立たないことがわかります。

上の夏希さんの計算をもとに考えたとき、はじめの数にける数がいくつ、たす数がいくつならば、計算結果はいつでも4の倍数になると予想できますか。「～ならば、……になる。」という形で書きなさい。

2－（１）「問題分析から授業改善へ」

◇「問題分析の視点」は、定着問題や定期考査の作成にも役立ちます。

- ① 「題材」に着目する
- ② 「構成」や「配列」に着目する
- ③ 「問い方」に着目する
- ④ 「解答類型」に着目する
- ⑤ 過去の学力・学習状況調査の類似問題に着目する

定着問題や定期考査などの作成の際には、「題材」「構成」「配列」「問い方」を参考にすることができます。

また、調査問題を、該当学年での定着確認やレディネステストに活用することも考えられます。

定着が十分でない場合は、分かる喜びが実感できるよう、身に付くまで粘り強く指導していきましょう。

2－（２） 「正答率等の結果から授業改善へ」

◇正答率等の分析は、授業改善につながります。

【分析の流れ】

- ① 成果と課題を洗い出す
- ② 学校全体で課題となるような「問題」を抽出する
- ③ ②の問題について、課題改善のための取組を考える

次ページから、主に小学校算数を例に、①～③の分析の流れを示しています。

2－（２）「正答率等の結果から授業改善へ」

①成果と課題を洗い出す視点

- ・ **正答率**に着目する

自校の正答率を県や全国と比較する。これまでの調査で見られた課題について、改善が見られるか確認する。定着に課題がある指導事項を確認する。

- ・ 「**内容や領域**」、「**評価の観点**」、「**問題形式**」に着目する

成果や課題が「内容や領域」、「評価の観点」、「問題形式」に着目し、これまでの取組を検証する。

- ・ **無解答率**に着目する

問題や、国の解説資料等を参考にして、解答を書いていない原因やつまずきを考える。

- ・ **反応率**に着目する

解答類型から「反応率」を見てみると、子供たちの誤答の状況やつまずきが見える。誤答から、個別最適な指導への気付きがある。



今年の３年生数学は、「図形」の領域の問題がよく解けていた。数学担当の〇〇先生の「図形」の授業に、授業改善のヒントがあるな。



小学校国語の「４二」の問題は正答率が高いけど、間違っ「３」と解答している子供も多いな。指導の方法を見直す必要があるな。

2 - (2) 「正答率等の結果から授業改善へ」

②課題となる問題の抽出

・ **正答率**に着目する

正答率が3割未満で、全国平均を下回っている。

・ **反応率**に着目する

解答類型から、「60」と解答する誤答の割合が33.2%であり、正答率よりも高い。また「40」という誤答が13.5%であり、無答は3.7%である。

授業改善に生かすポイント

○問題を実際に解いてみましょう。

○提供されたデータの問題別(解答類型)調査結果と「報告書」の解答類型を参考に、子供のつまづきがどこにあるか確認しましょう。

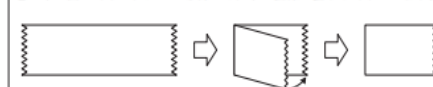
R5年度 小学校6年生算数より

●小学校算数2(3)(本県21.4%、全国24.9%、-3.5) 問題の一部

(3) えいたさんは、下のようにつくり方で三角形をつくります。

【えいたさんのつくり方】

① 下の図のように、テープを折って、下の直線が重なるようにします。



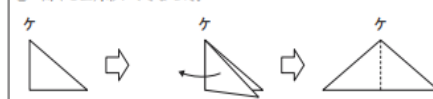
② 右の図のように、折り目のしを点ケとします。



③ 折って重ねたまま、点ケを通るなめの直線で切ります。



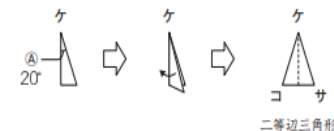
④ 開くと三角形ができました。



ゆいさんとわたるさんは、【えいたさんのつくり方】の③の図で、下の④の角の大きさをそれぞれがうごきさにしました。



私は、④の角の大きさを20°にしました。切った開いた三角形ケコサは、二等辺三角形になりました。



私は、切った開いた三角形を正三角形にするために、④の角の大きさをゆいさんとちがう大きさにして切りました。

切った開いた三角形を正三角形にするには、④の角の大きさを何度にするればよいですか。

答えを書きましょう。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
② (3)	1 30 と解答しているもの	25.3	◎
	2 60 と解答しているもの	33.2	
	3 15 と解答しているもの	0.2	
	4 120 と解答しているもの	0.9	
	5 45 と解答しているもの	7.7	
	6 90 と解答しているもの	4.8	
	7 20 と解答しているもの	3.1	
	8 40 と解答しているもの	13.5	
	99 上記以外の解答	7.7	
	0 無解答	3.7	

2 - (2) 「正答率等の結果から授業改善へ」

③抽出した問題の課題改善への取組

①問題を解くために必要な力を確認する。

- ・ 報告書の出題の趣旨や該当学年を確認し、学習指導要領解説から身に付けさせる力を確認する。

②課題改善への取組を設定し、確実に実践する。

- ・ 調査対象学年や、抽出した問題の該当学年でも設定した取組を行う。

(例) 課題が見られた内容と関連する領域や指導事項等を扱う際に、既習事項を振り返ったり、活用したりする場面を設定する。

(例) 全学調の問題を、該当学年の定着問題や定期考査の問題作成の参考とする。

※問題別調査結果を見ると、出題の趣旨や該当学年が分かります。

問題別調査結果



調査対象学年	調査年度	調査項目	調査結果	調査結果 (%)	調査結果 (%)	調査結果 (%)	調査結果 (%)	調査結果 (%)	調査結果 (%)
1 (1)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (2)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (3)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (4)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (5)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (6)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (7)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (8)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (9)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (10)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (11)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (12)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (13)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (14)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (15)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (16)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (17)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (18)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (19)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (20)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (21)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (22)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (23)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (24)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (25)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (26)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (27)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (28)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (29)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (30)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (31)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (32)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (33)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (34)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (35)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (36)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (37)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (38)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (39)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (40)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (41)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (42)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (43)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (44)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (45)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (46)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (47)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (48)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (49)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (50)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (51)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (52)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (53)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (54)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (55)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (56)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (57)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (58)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (59)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (60)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (61)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (62)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (63)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (64)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (65)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (66)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (67)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (68)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (69)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (70)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (71)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (72)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (73)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (74)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (75)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (76)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (77)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (78)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (79)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (80)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (81)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (82)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (83)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (84)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (85)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (86)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (87)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (88)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (89)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (90)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (91)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (92)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (93)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (94)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (95)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (96)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (97)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (98)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (99)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1 (100)	1	1	1	1	1	1	1	1	1

出題の趣旨が分かります

該当学年が分かります

2－（3）「国の授業アイデア例や、県の教科に関する調査結果から授業改善へ」

○国の授業アイデア例や県の教科に関する調査結果を参考にする。

- ・課題に関連する問題に着目する
- ・具体的な授業場面における改善の手立てを考える

授業改善に生かすポイント

- 課題のある問題の解答状況を把握しましょう。
- 国や県の資料を参考に、具体的な授業場面における課題改善に向けた手立てを考え、確実に実践しましょう。

C：読書活動を振り返る場面 これまでの読書活動を振り返り、読書の意味を考える

◇ 一年間取り組んできた読書活動を振り返り、読書の意味を考えます。

教師
みなさんは一年間、さまざまな種類の本を読んで、日常的に読書に親しみましたね。読書にどんなよいところがあったか、振り返ってみましょう。

【Aグループでの振り返り】

私は、日本の歴史に興味があったから、いろいろな時代の本を図書館から借りたよ。

私は、星について疑問があったんだけど、本を読んだら疑問だったことが解決したよ。困ったときには、読書をするとう解決できるね。

ぼくも好きなシリーズの本を図書館から借りたけれど、図書館には自分の読みたい本があるね。

【Bグループでの振り返り】

私は、伝記を読んで、今までの自分になかった考えを発見することができたよ。

ぼくは、意見文を読んだら、自分の考えも広がったし、自分の心に響く言葉も見付かったよ。

ぼくは、物語の登場人物の生き方にふれて、自分の生き方についても考えるようになったんだ。

【Cグループでの振り返り】

いろいろなジャンルの本を読んで、自分の本の読み方が変わってきた気がするよ。

私が読んだ説明文は、結論が一番最初に書かれていて、分かりやすかったし、説得力もあったよ。文章の書き方も大事なんだね。

ぼくは、自分が文章を書くときに役立つ書き方を学ぶことができたよ。今後、この書き方で書いてみようと思ったよ。

ポイント

○ 児童自身が読書の価値に気付くことができるようにすることが大切です。年間の「読書の記録」を生かして、どのような本や文章を読んできたのか、読書がどのように自分の考えを広げるのに役立ったのかなど、交流する場を工夫し、児童同士で気付きを引き出せるようにすると効果的です。

令和6年度全国学力・学習状況調査報告書「小学校国語」より

3 質問調査の分析について

◇質問調査の結果分析から、課題改善の取組へ

【分析の流れ】

- ① グランドデザイン等と関連のある質問項目を絞り込む
- ② ①について、表やグラフで可視化する
- ③ 結果を分析し、課題改善の取組を考える

※ 「本校の重点取組(活用)シート」と併せて活用する

※P7参照

まずは、「課題改善に向けた重点指標及び取組」と「本校の重点取組（活用）シート」を確認しましょう！

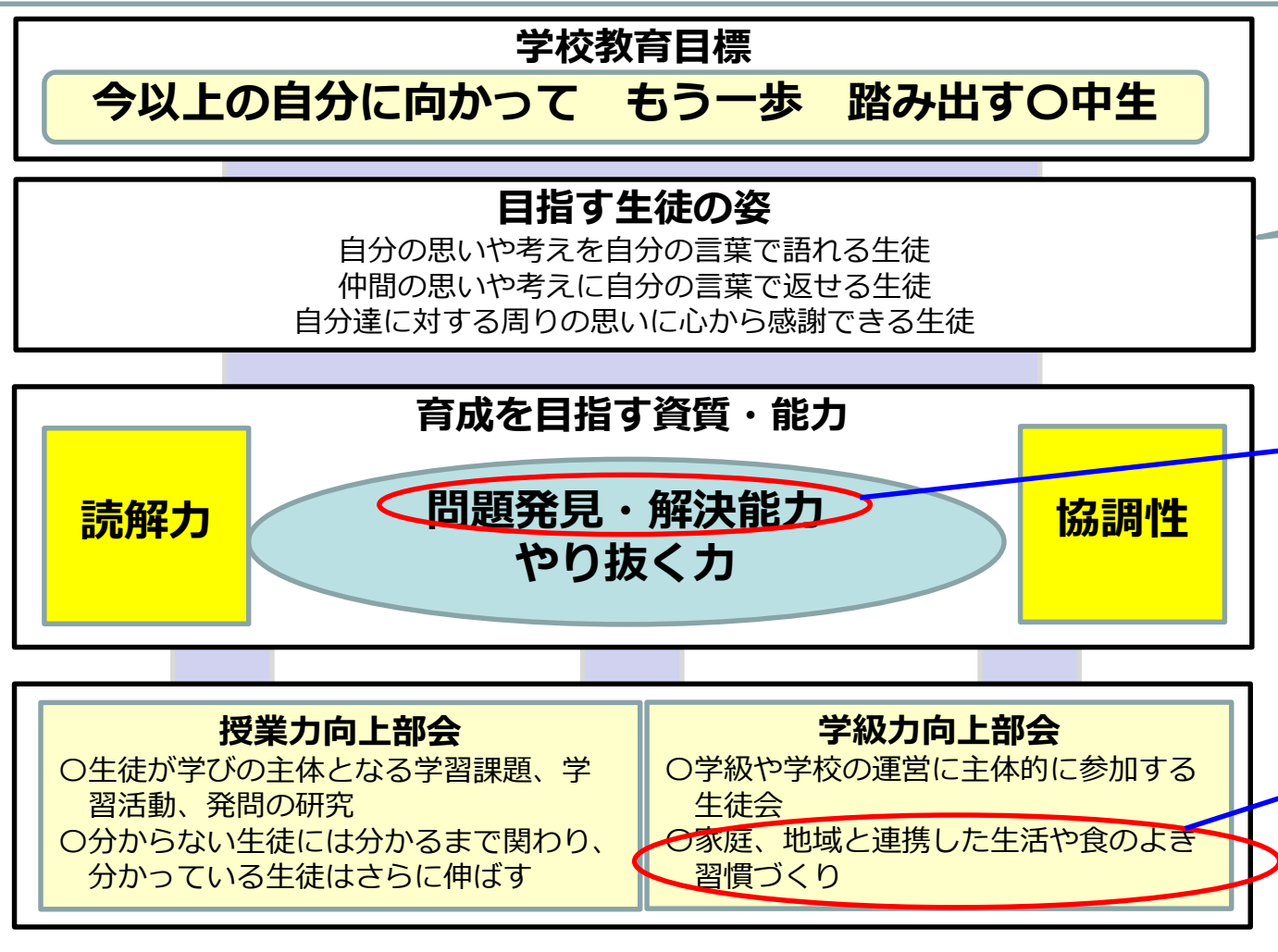


3－（１）「質問項目の絞り込み」

- ① 学校教育目標、育成を目指す資質・能力の達成につながる質問項目を選び、その中から絞り込む。

※学級経営、校内研修等でも考えられます。

グランドデザインの一例（一部分を抽出）



グランドデザインや研究計画等を基に各学校が、質問項目を選ぶ。

（例）児童生徒質問の問20
「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」について、回答割合や経年変化を見ていく。

（例）学校質問の問14の回答割合から、地域等の外部の資源を含めた、教育活動に必要な人的・物的資源等の活用状況を分析していく。

3－（１）「質問項目の絞り込み」

【児童生徒質問及び学校質問の主な項目】

児童生徒質問対応表

		質問番号	学年・学年 ページ	クロス分析 ページ
1 基本的な生活習慣等	小学校調査	1～8	13～18	90
	中学校調査	1～8		
2 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等	小学校調査	9～19	17～21	
	中学校調査	9～19		
3 学習習慣、学習環境等	小学校調査	20～24	22～24	91～93
	中学校調査	20～24		
4 地域や社会に関わる活動の状況等	小学校調査	25～26	25～27	
	中学校調査	25～26		
5 ICTを活用した学習状況	小学校調査	27～28	28～30	
	中学校調査	27～28		
6 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	小学校調査	29～37	31～34	94～95
	中学校調査	29～37		
7 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳	小学校調査	38～41	35～36	
	中学校調査	38～41		
8 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語）	小学校調査	42～49	37～40	96～99
	中学校調査	42～49		
9 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）	小学校調査	50～57	41～44	100～103
	中学校調査	50～57		
10 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（理科）	小学校調査	58～60	45	
	中学校調査	58～60		
11 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（英語）	小学校調査	61～63	46～48	
	中学校調査	61～65		
12 各教科に関する調査の解答状況	小学校調査	国1、国2、算1、算2	49～50	104
	中学校調査	国1、国2、算1、算2		

報告書には、質問対応表があり、それぞれの質問がどういった項目に関する調査であるか、掲載ページとともに記載してあります。

R6年度児童生徒質問の主な項目

- 1 基本的な生活習慣等
- 2 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等
- 3 学習習慣、学習環境等
- 4 地域や社会に関わる活動の状況等
- 5 ICTを活用した学習状況
- 6 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- 7 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳
- 8 学習に関する興味・関心や授業の理解度等（国語）
- 9 学習に関する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）
- 10 学習に関する興味・関心や授業の理解度等（理科）
- 11 学習に関する興味・関心や授業の理解度等（英語）
- 12 各教科に関する調査の解答状況

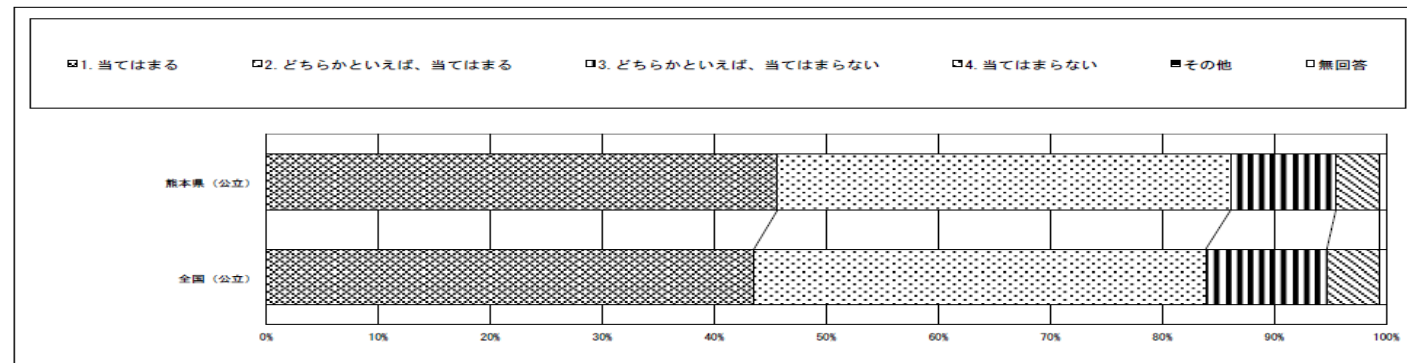
R6年度学校質問の主な項目

- 1 生徒指導等
- 2 学校運営に関する状況／教職員の資質向上に関する状況
- 3 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- 4 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳の指導方法
- 5 学習評価
- 6 国語科の指導方法
- 7 算数・数学科の指導方法
- 8 理科の指導方法
- 9 英語科の指導方法
- 10 ICTを活用した学習状況
- 11 特別支援教育
- 12 小学校教育と中学校教育の連携
- 13 家庭や地域との連携等
- 13 家庭学習
- 15 全国学力・学習状況調査の結果の活用

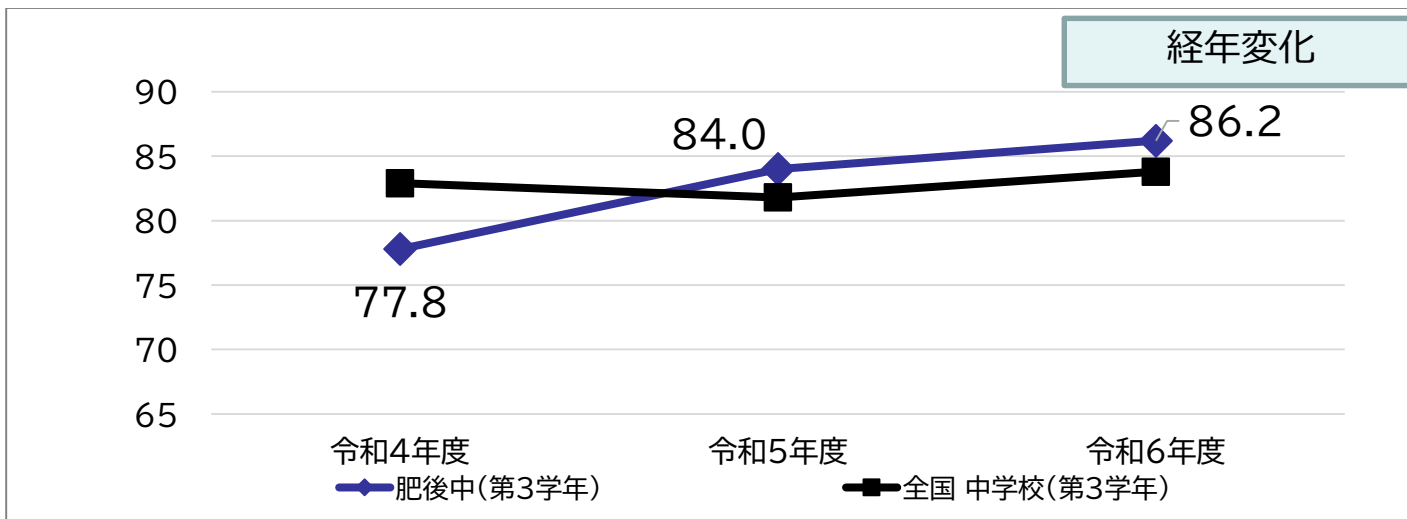
3 - (2) 「結果の可視化」

② ①の質問項目を、表やグラフにする。

質問番号	質問事項											回答結果集計	
(16)	学校に行くのは楽しいと思いますか												
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答	
熊本県（公立）	45.7	40.5	9.4	3.9							0.0	0.6	
全国（公立）	43.5	40.3	10.8	4.7							0.0	0.6	



- ・各学校に提供されている、「回答結果集計」を活用する。
- ・学力調査とのクロス集計も可能。

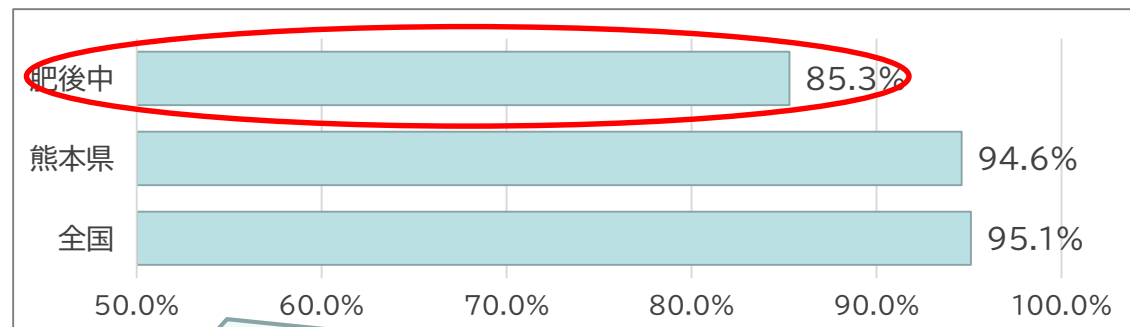


- ・経年変化は折れ線グラフにし、全国や県の平均と比較してみる。

3－（3）「分析と取組」

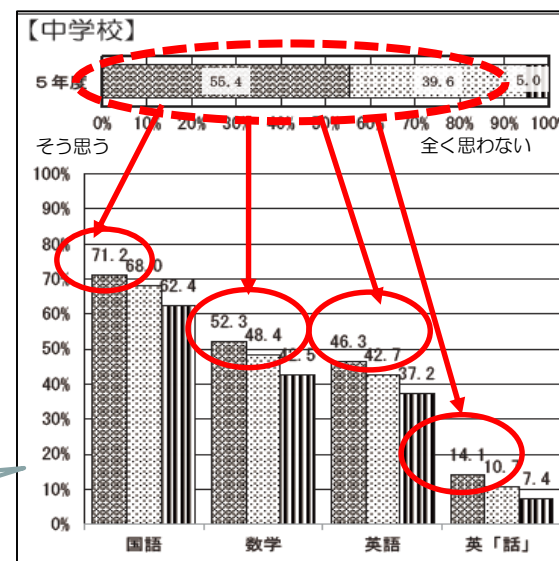
③ 結果を分析し、課題改善の取組を考えましょう。

(例)「学校質問9 調査対象年学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていますか。」の結果



分析1: 肯定した生徒の割合を全国値、県平均と比べると、肥後中は低い傾向にある。

分析2: 国のクロス分析では、肯定率が高い学校ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあることを確認する。



取組を考えるためのポイント

- これまでの取組を振り返り、成果と課題を整理する。
- 授業、行事、児童会・生徒会等での児童生徒の様子を共有する。
- 児童生徒はどう考えているかアンケートで聞き取りを行う。(児童会、生徒会との連携)
- 学校教育目標の実現や育成を目指す資質・能力に向け五者連携で取り組むことを考える。
- 「熊本の学び」プロジェクト校の取組や、「熊本の学び推進プラン」、取組事例集等を参考にする。

校内研修シート例

校内研修シート① 「問題分析から授業改善へ」

◇各学校でも問題を
分析してみましょう。

取り出した問題：教科() 大問()の()
※平均正答率 ：自校()%、県()%

①「題材」や「配列」、「問い方」の工夫について、話し合ひましょう。

②「解答類型」から、自校の子供たちのつまずきを確認しましょう。

③ 過去の調査問題の類似問題を探してみましょう。
・ () 年度の () 年生

(教科) 大問 () の ()

○学校総体で取り組む内容を
まとめましょう。

成果が見られた内容

○ 出題の趣旨や【問題番号】、自校や本県、全国の正答率、差などを書き入れましょう。

課題が見られた内容

○ 出題の趣旨や【関連番号】、自校や本県、全国の正答率、差などを書き入れましょう。

◇課題となった問題の誤答例から学ばせる必要がある知識・技能を考えたり、定着につながる言語活動や学習活動など具体的な授業の場面を考えましょう。

課題が見られた問題

●問題番号(大問 の)
(自校 %、本県 %、全国 %)

・誤答の状況

・誤答しないために必要な力

・そのための手立て

「児童生徒を学びの主体」とする授業改善の視点

※参照：県教委HP「教科の結果分析と課題の改善に向けて」

目指す具体的な授業場面

○
※学習指導要領解説を読んで考える。

校内研修シート④ 「質問項目の絞り込み」

○各学校の教育目標、育成を目指す資質・能力、重点取組

- 
- ・「児童生徒質問」から、上記の実現に向けて特に関連のある質問項目を選ぶ。
 - ・肯定率を全国平均や県平均と比較し、肯定率の経年変化を確認する。

- 
- ・「児童生徒質問」と関連のある学校質問を選ぶ。
 - ・全職員に調査し、児童生徒の意識と比較してみる。

校内研修シート⑤ 結果の可視化、分析と取組

①質問項目
【問 】

②結果（表やグラフでの可視化）

③分析結果及び今後の取組